

2020年度 特定非営利活動に係る事業計画書

事業実施の方針

◆里山保全部門

* 管理場所グループ

根戸城址を中心とする里山、田畑、水辺とその環境は今まさに貴重な存在になっている。この環境を活用、保全し後世につなげていくことを目的とする。

根戸城址 周辺道路の清掃、場内整備。巡視。落葉の堆肥化。枯れ枝の整理・無煙炭化器による焼却、できた炭の圃場への散布。間伐材の活用及び倒木の処理。下草刈り。森の劇場整備。隣接地への協力。立ち入りの管理

ミカン山 除草。施肥。防虫。剪定。収穫。植樹。立ち入りの管理

ハス田 畦及び水中の除草。間引き。施肥。切り花募金。枯れ茎の除去

田んぼ 水管理。機器の点検。雑草の除去。耕うん。等年間を通しての水田管理
かさ上げ工事に伴う諸作業

その他 他部門との連携

* 個別活動グループ

・里山農教室部会

有機生態系農業を学び研究し実践する場として開講する。

受講生のなかから、里山環境の保全活動の担い手を育成することを目指す。

3チーム編成とする。統括部門のユーティリティチームを拡充し、圃場の耕耘、暗渠清掃、各チームの支援、子ども部会の技術指導など、幅広く農教室を下支えする体制を作る。子ども部会は子ども圃場・田圃で本体とは分離して作業を行うこととする。

・特別コース部会

年間10回の会合を開き、遠藤理事長の指導のもと、有機生態系農業を実践し学習する。

約10㎡の圃場を管理し、各自で栽培計画と課題を設定し、年末に結果報告し、評価、考察する。

6月には農教室と合同で埼玉県にある「あかし農園」を訪問し、バス研修会を開催の予定である。課題作物の「さといも」の栽培を行い、11月のそば祭りの時に品評会を実施の予定である。

・ハーブ部会

昨年度よりもさらに新たなハーブ種の数を追加して育成・作業を行う予定である。

・養蜂部会

根戸城址で多くの巣箱を維持・管理し、会員に蜂蜜・蜜蝋クリームを潤沢に供給するとともに、部会員が日本ミツバチ飼育の基礎技術を習得することを目指す。

・竹教室部会

令和二年度は、第四期生の初年度で、竹細工の基本的な事柄を学び、最初の課題「四海波花籠」と「六つ目編籠」の作成を行う。

・子ども部会

親も子も一緒に手賀沼流域の自然と共にある地域づくりに取り組む。こども畑・田んぼ、根土城址をフィールドとした循環環境型有機生態系農業を実践する。また、活動するフィールドにおける生物多様性を記録、マップを作成し、多様な生物を有するこの里山環境の保全を行う。

根土城址の一角に竹を素材として作製した遊具などを作製し、プレイパークを創る。

根戸城址の枯れ枝などを拾い集め、無煙炭化器で焼却し、圃場に散布する活動を中心的に担い、里山保全活動に積極的に参加する。

各種イベントではアトラクションの企画・運営、かき氷のふるまいなどを分担する。

◆遊休農地活用部門

* 遊休農地対応グループ

- ・船戸圃場、宮前沼圃場、宮前アート圃場では景観作物を栽培して、農地を保全すると共に手賀沼周辺の景観と環境を守る活動を行う。
- ・船戸圃場では公開イベントを7月に「ひまわり迷路とクイズに挑戦」を4日間、3月に「菜の花畑散策と頭の体操」を4日間開催する。
- ・船戸沼圃場は当面は草刈り管理をおこない、景観作物の栽培が可能かどうか様子を見る。
- ・宮前沼圃場では4～7月にひまわり栽培、10～3月に菜の花栽培を行う。
- ・宮前アート圃場では4～7月にコスモスとひまわり栽培、9～3月に菜の花とクローバーまたはレンゲ栽培で絵図を描く。
- ・栽培をしたひまわりから種子を取り、搾油をしてひまわり油を得る。
- ・船戸圃場、宮前沼圃場・宮前アート圃場の景観作物栽培は我孫子市の「手賀沼沿い農地活用補助金制度」の申請を行い実施する。
- ・宮前田圃では苗づくりの段階から工夫を凝らし、収量の増加を図り、遊休農地活用活動に参加した人々に出来るだけ多くの現物支給を行う。

* 新規就農者支援グループ

- ・新規就農希望者が現れた場合は、市・県と協力して農業者として自立できるよう援助する。

◆事務局部門

* 事務局グループ

- ・各事業部門が存分に活動できるようバックアップする。
- ・地域住民・地域諸団体との連携を強め、手賀沼トラストの活動をいっそう理解してもらい、遊農チームへの参加・イベントへの参加などを呼びかける。
- ・トラスト正会員、協会会員、メルマガ会員の募集を積極的におこなう。
- ・託された農地で、米をつくり、景観作物を栽培し、地域の方がたの信頼を勝ち取る。
- ・遊農チーム（GMT65）と現物支給制を拡充・維持し、会員みずからが作ったものを消費することがそのまま里山保全につながる体制の確立を目指す。
- ・トラクターの公道走行時の保険など、必要な保険に加入し、安全管理、リスク管理に努める。
- ・農業機械の実習・講習をとおして、機械を安全に使い、効率的に作業ができるよう努める。

交流グループ

- ・会員相互並びに一般市民との交流の場として、田植え・早苗饗（さなぶり）、案山子祭り、稲刈り、そば祭り、餅つき大会などを実施する。田植え・かかし祭り・稲刈りのイベント時には子ども部会の父母にアトラクション・かき氷などの企画・運営をしてもらう。
- ・会員同士、あるいは他団体、行政、事業者と自然環境や農について学び、情報の共有化を図る。
- ・他団体との連携については、トラスト活動に支障のない範囲で、積極的に行う。
- ・トラストサロンを開催する。

◆総括計画

・地元で生きる・地元を活かす

手賀沼トラストは手賀沼の西端、我孫子と柏の市境—^{とかいなか}都会田舎—で活動している。ここには、通勤から解放され自由な時間をふんだんに持っている定年退職者、後継者がなく荒れていく田畑を嘆く農業者、ゲームづけの子どもに困っている若いパパママがいる。

手賀沼トラストは、子どもたちには田畑での農業の楽しみや根戸城址という豊かな森を与え、定年退職者には里山農教室で野菜作りと仲間作りを提供し、お百姓に替わって稲やヒマワリを育てて農地を復活させる。

子どもから老人まで、地元で汗をかき、地元で楽しむ、そして緑豊かな地元を創る、こんなスローガンを掲げてさらに前進したい。

・**新型コロナウイルスに打ち克つ**

猛威をふるう新型コロナウイルスに最大限警戒しながらも、地域に生きる・地域を活かすNPOとして、コロナ禍からの立ち直りを全力を挙げて担いたい。